

練二通信

No. 403

令和2年11月30日

練馬第二小学校

校長 濱中 一

『ONE TEAM』という言葉の意味

校長 濱中 一

昨年の秋、ラグビーワールドカップが日本で行われました。日本代表チームが当時世界ランク一位のアイランドに勝ち、史上初めてベスト8に進む快進撃に日本中が熱狂しました。『ONE TEAM』は、昨年の流行語にもなりました。

日本代表チームは、今回の大会でベスト8に入るといふ明確な目標を掲げ、前回のワールドカップから四年間もの長い間、想像を絶するような努力を積み重ねました。しかし、これらの取組がマスコミに取り上げられることはほとんどなく、世界中、そして日本人々でさえも、世界の強豪チームを相手に日本代表がここまで活躍するとは予想していなかったことでしょう。そんな中、日本代表チームは強豪アイランドに勝ち、一番プレッシャーがかかるベスト8目前のスコットランド戦でも堂々の勝利をおさめ、日本中にラグビーという競技の素晴らしさを広めたのです。

試合に出場する選手はもちろん、これまで携わってきた人たちの全てが、日本の悲願達成にむけて役割を担っていました。今回の代表メンバーに漏れてしまったある選手は、悔しい思いを乗り越え、チームを思う気持ちから、チームソングを作ってチームの士気を鼓舞しました。また、直前の台風で会場が水浸しになり、試合が中止になればベスト8進出が危うくなる可能性があった中、スタッフが全力で会場を整備し、試合ができる状態にピッチを整えました。「日本ラグビーの未来のために、このワールドカップで絶対にベスト8に行く」日本ラグビー界全体が目的を明確にし、思いを共有したからこそ、努力を重ね、結果につなげることができたのです。流行語にもなった『ONE TEAM』という言葉は、単にチームが一つになるというだけではない、深い意味をもつ言葉だと私は思っています。

練二小の教育活動の目的は「全ての子どもたちが笑顔で通うこと」です。全ての教育課程は、この明確な目的の実現のために編成されています。安全安心で開かれた学校、知徳体の充実、教育課程の改善、特色ある教育の実現。教職員が思いを一つに共有し、日々子供たちと共に歩む『ONE TEAM』でありたいと思っています。

十一月の朝会より

〇十一月は霜月。昔の暦は今よりも一か月位遅いので、真つ白な霜が降りる、今の暦の十二月頃をさす。季節を感じさせる昔の言葉を調べてみよう。

〇読書週間「ふたりはともだち」の本の紹介。二年生の教科書に載っているがまくんとかえるくんのお話。二人がなぜこんなに仲良しなのか分かる本。この機会に、物語の世界にどっぷりとつかってみよう。

十二月の行事予定

- 2 (水) なわとび月間 (〜24日)
- 3 (木) A時程午前授業
研究授業 (二年二組)
- 7 (月) アスリートによる特別授業
委員会活動
- 11 (金) ユニセフ募金 (〜12日)
- 12 (土) 土曜授業 学校公開日
もちつき大会 (六年)
- 14 (月) お話の会 (一年)・クラブ活動
- 15 (火) お話の会 (二年)
- 18 (金) 縄跳び教室 (二・四・六年)
- 21 (月) クラブ活動
- 23 (水) 避難訓練
- 25 (金) B時程・給食終
- 26 (土) 土曜授業 (公開なし)
- 28 (月) 冬季休業日始

※1月7日(木) 始業式・給食始
午前授業 (一〜四年)
委員会活動 (五校時)



- ★今月の生活目標
- ・みんなで使うものを大切にしよう。
- ★週の生活目標
- ・遊び道具など使ったものの後始末をきちんとする。
- ・そうじや給食の後始末をきちんとする。

たけまるアートフェスティバルを終えて

学芸的行事部

本年度実施予定だった学芸会の中止を受け、それでもみんなで一つのことを創り上げる体験をさせたい、という思いから生まれた「たけまるアートフェスティバル」。一人一人の自由な発想のもと、友達と協働しながら創作活動を行う子供たちは、まさにアーティストそのものでした。

図工では、集合・共同制作「こよりdeタワー」に取り組みました。初めはこんなこより一本でいったい何ができるのだろうか？本当にタワーになるの？と迷っていた子も多かったようです。リハーサル前日の造形遊び最終日、一年生から六年生はリレー式にタワーにしていきました。一本ではどうにもならないものも、つながり合い、支え合うことで一つの形に表せることを経験してもらいたいと思う活動でした。

音楽では、グループごとにつくった音楽を発表しました。一人一人が違う音、リズム、旋律、タイミングを考え、試行錯誤しながらそれらをつなぎ、重ねてみんなで音楽を紡いでいく。この過程があったからこそ、自分たちの音楽に愛着をもって演奏できたのだと思います。

通常の展覧会・音楽会とはまた違う、

子供たちのあふれる創造性を感じ取っていただけていましたら幸いです。

「なわとび」の取組

体育的行事部

十二月二日（水）から十二月二十四日（木）までの中休みに、全校的に「なわとび」に取り組みます。

なわとびは、調整力と持久力を身に付けることができる運動です。継続して取り組むことで、確実にこれら二つの力を身に付けることができます。

またコロナ禍では、ソーシャルディスタンスを保ちながらできる運動としても注目されています。今年度は、なわとび月間中にプロなわとびプレイヤーの生山ヒジキさんをお招きしてなわとび教室を実施する予定です。

期間中、一人一人に「なわとびカード」を渡します。「なわとびカード」は、初級・中級・上級・名人の四段階あります。まず、全員が初級カードに合格できることを目標にします。三年生以上はできるカードから挑戦し、可能な限り次のカードを目指してほしいと思います。名人のカードをもっている児童は、「なわとび先生」として低・中学年の児童を教えることで異学年交流も図ります。

ご家庭でもぜひ、励ましの声を掛けてあげてください。

ユニセフ募金について

特別活動部

世界には、様々な危険や困難に直面している子供たちがたくさんいるという現状に目を向けること、世界中の子供たちの命と健やかな成長を守るためにユニセフという機関があることについて理解するため、今年度もユニセフ期間を実施します。

十二月十日（木）に、代表委員会によるユニセフ集会を行います。代表委員会の児童は、劇やクイズなどの発表の準備を進めています。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、事前に撮影した映像を各教室で視聴する形での集会を予定しております。さらに、子供たちは各学級で、ユニセフのビデオ教材やリーフレットでの学習を通してユニセフの活動や様々な国の状況について学びます。

世界中の子供たちの現状を知る上で、日本で生活する私たちには、想像することが難しいこともあるかと思えます。ユニセフ期間での学習を通して今までよりも広い視野で、自分にできることを考える機会になればと思っております。ユニセフ集会の翌日の十二月十一日

（金）と十二月十二日（土）の登校時間には、中央昇降口と東昇降口で募金活動を行います。募金については、各学年便りに詳しく掲載しています。ご協力を宜しくお願い致します。

冬休みを迎えるにあたって

生活指導主任

子供たちが楽しみにしている冬休みが近づいています。安全に、また有意義に過ごせるよう以下のように指導してまいります。

- ① 家族の一員としての自覚をもって規則正しい生活をしましょう。
 - ・お手伝いや、お正月等の挨拶をしつかりとしましょう。
 - ・早寝・早起き、手洗い等に努め、健康に過ごしましょう。
- ② お金の使い方
お年玉などお金を手にすることが多い時期です。トラブルに巻き込まれないよう、計画的な使い方ができるよう気を付けましょう。
- ③ 交通安全
特に自転車の飛び出しによる事故には、十分気を付けましょう。
- ④ 家族でスマホの使い方などSNSルールをきちんと話し合いましょう。
後日配布する「冬休みの生活について」もご覧いただき、楽しい冬休みを過ごせるようにご家庭でもご協力をお願いします。